

令和4年度教育事業 そにとつキャンプ ～出合いのキャンプ～



1. ねらい

- ・新しい仲間と出合い、親交をもつ。
- ・みんなで協力する気持ちを培う。
- ・やり遂げることの喜びを感じる。
- ・自然（光、風、水、草木）を体感する。

2. 実施日

6月11日（土）～6月12日（日） 1泊2日

3. 対象者

発達障害のある小学校3～6年生

4. 参加者 / 募集定員

12名 / 12名

5. プログラム（要約）

「そにとつ」のキャラクターを活用した、ストーリーキャンプを行った。活動全体においては絵カードや「そにとつ」からのメッセージ動画を用い、活動の流れを子どもたちに示し、見通しをもって活動できるようにした。また、「キャンプのやくそく」として、大切にしたい事項を具体的に示し、キャンプリーダーのサポートを受けながら初めて出会う仲間と協力し、少しずつ達成感を積み重ねた。

スケジュール

6月12日（土）1日目

「はじまりの会」
「そにとつウォークラリー」
「ゆうやけハイク」
「ふりかえり」

6月13日（日）2日目

「野外炊事」
「ふりかえり」
「おわりの会」

6月11日（土）

はじまりの会にて、12名の参加者たちには「秘密の組織“チームそにとつ”の新米エージェントとして集められた」という説明がされ、一人前のエージェントになるべくキャンプの間に課される様々なミッションに挑戦していくこととなった。

まず、お互いを知りあうためのアイスブレイクの時間が設けられた。参加者たちは「ネームトス」や「猛獣狩り」などのゲームを通して緊張がほぐれたようであった。

昼食を取った後は「そにとつウォークラリー」を行った。雨が降っていたため、屋内でのウォークラリーとなったが、薪割りやふとん敷きなど、館内の各地で課される小さなミッションを協力しながらこなしていくことで、班の親睦を深めつつ、施設のことを知ることであった。

夕方から「ゆうやけハイク」を行った。少雨の中であったが、参加者たちは雨具を着ながら周辺を散策し、だんだん暗さを増していく空模様や、雨具にあたる雨の感触を楽しんでいた。



6月12日（日）

前日と打って変わって快晴となった2日目は、野外炊事場でのちゃんこ鍋づくりを行った。班ごとに「調理係」と「火おこし係」に分かれ、分担しながら作業を進めた。薪割りは前日のウォークラリーで経験しているため、火おこし係はケガもなくスムーズに準備を進めた。どの班も調理係の準備ができる頃には火が付き、準備は万端といったところであった。

昼食後は今回のキャンプのふりかえりを行った。自分や班の仲間が頑張っていたところや、次回のキャンプに向けた目標を出し合い、再会を誓っていた。

6. まとめ

今回のキャンプは、次回以降のキャンプに向けて、参加者同士の親睦を深めるとともに、曽爾青少年自然の家に親しみを持ってもらうことを主な目的とした。一つ一つのプログラムを参加者同士の相談や協力が必要なものにする中で、意見を出し合ったり、助け合ったりする姿を見ることができた。

次回のキャンプでは、出合いのキャンプよりも難しい課題に挑戦し、それをクリアすることで達成感を積み重ねていけるよう準備していきたい。

（企画指導専門職 山内康平）